

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-53	実施計画番号	66	事業開始年度	昭和47年度
事務事業名	郷土館事業の充実			事業終了年度	
担当課名	スポーツ・生涯学習課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	市の歴史と文化に関わる資料の収集、保管、研究及び展示を行う。また、収蔵資料を持参して郷土学習を行う「移動郷土館」を実施する。				
事務事業の目的	縄文時代から現代までの、市の歴史と文化に関する資料の保存と活用を進め、郷土についての包括的な学習機会を提供する。				
実施状況	常設展示及び企画展、特別展、小学校などへ収蔵資料を持参し郷土学習を行う「移動郷土館」を実施している。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	244	243	243
	人件費(千円)	8,784	8,748	8,748
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	3,173	3,645	3,895

【指標】

活動指標	活動指標名①		移動郷土館実施校数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			校	11	9	10
	活動指標名②		企画展回数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			回	1	2	1
成果指標	成果指標名①		来館者数			
	計算式等	単位		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		人	目標値	2,000	2,000	2,000
			実績値	1,213	2,700	
			達成度(%)	61%	135%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			目標値			
	実績値					
	達成度(%)					

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 市民や市内各小中学校の郷土学習の場をして広く利用されており、妥当性は高いものと思われる。	
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6 企画展の開催や、移動郷土館の実施により、来館者等は増加しており、今後も広報活動等を積極的にを行い、来館者の増加に努めたい。	
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 事業については精査を行い、必要最小限の費用で施設管理や事業等を実施しており、効率性は高いものと思われる。	
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 公平性は保たれている。	
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

市民や各小中学校、研究機関等へ、郷土の歴史と文化を広める事業であり、予算の範囲内で現状のまま継続していきたい。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

企画展の開催や広報等を通じて、来館者が増えるよう広く周知していきたい。